梅檀

双葉南小学校だより
発行日2010，6,29
№　１１
発行責任者　末永幸弘

プール開き

六月二十八日（月）三校時に、予定通りプール開きが行われました。気温は三十三度、水温二十八度と絶好のコンディションでした。

「いよいよ、楽しみにしていた水泳の勉強がスタートします。楽しく泳いでください。めあてをもって、こつこつ努力することが大事です。もう一つ水の中の勉強ですから、命にかかわる事故が起きます。約束を守って事故のない楽しい水泳の勉強をしてください。」

続けて、ホンダの創始者本田宗一郎さんの子どもの時の話をしました。

本田少年は小さい頃泳げませんでした。何とかして泳げるようになりたいといつも願っていました。そこで本田少年は、友達にこう聞きました。「どうしたら、泳げるようになるの。」

すると、友達は、こう言ったのです。

「生きているメダカを飲み込めば、泳げるようになるんだよ。」

もちろん、そんなことはうそです。でも、小さかった本田少年は、それを信じてしまいました。そして、メダカをつかまえて、本当に飲んでしまいました。それどころか、毎日、毎日、ザルでメダカをすくっては飲みつづけていました。

でも、泳げるようにはなりませんでした。

本田少年は、考えました。「どうして、泳げるようにならないのだろう」そして、次の考えにたどり着いたのです。

泳げないのは、飲んだメダカが小さすぎたのではないのかな。よし、大きなメダカをつかまえて飲もう。

そして、やっとのことで、大きな立派なメダカをつかまえました。つかまえるとすぐに、そのメダカを飲み込んだのです。

さて、この後、どうなったでしょうか。①お腹をこわした②泳げるようになった③全然およげるようにならなかった

実は、それから何日もしないうちに、本田少年は泳げるようになってしまったのです。

さて、本田少年を泳げるようにさせたのは、本当にメダカなのでしょうか。

ちがいますね。本田少年の「泳げるようになりたい」、「できるようになりたい」という気持ちが泳げるようにさせたのだと思います。

みんなも何かに取り組んで、「できない」とか「もうだめだ」と思うことがありますね。そんな時に大切なのは、本田少年のような「できるようになりたい」という強い気持ちを持つことですね。

次に体育主任から水泳学習の大事なきまりについて確認がありました。

①プールに入れない場合について
②プールに入る前の準備について
③プールの入り方
④水泳学習の注意

次は、各クラス代表による「今年の水泳のめあて」の発表です。クロールや平泳ぎの泳法を身につけたい。距離を伸ばしたい等、それぞれしっかり発表できました。

引き続き、六年児童による模範泳法の発表です。

クロール・・・三瓶実莉さん
平泳ぎ・・・・柳瀬皇紀さん
バタフライ・・井上愛梨さん
背泳ぎ・・・・竹原実来さん

の四人がきれいな泳ぎを披露してくれました。

続いて、いよいよ入水です。一年と六年がそれぞれペアになって、二年は五年と。初めての一年生もバディシステムで安心して入水できました。

ジャブラニ寄贈

サッカーワールドカップも大きな盛り上がりをみせていますが、28日、双葉郵便局から、ワールドカップの公式試合球「ジャブラニ」のレプリカボールの寄贈がありました。

地域の子どもたちにこのボールを身近に見て楽しんでもらい、サッカーを通して「夢をもってもらおう」ということでの寄贈でした。昼休みに双葉郵便局長さんが来校され、サッカースポ少に所属する渡部さん、坂本さん、青田さん、武田さんの四人に手渡されました。

【ジャブラニ】

『ジャブラニ』とは、南アフリカ共和国の公用語であるズールー語で「祝杯」を意味します。アフリカ大陸初の開催を全世界の人々で「祝福しよう」という気持ちを込めて名づけられました。

南アフリカには、11の公用語があり、サッカーも11人でプレーすることから、全11色のカラーが使用されています。

玄関に展示しました。

定着確認シート

県教育委員会が、県内の児童生徒の学力向上支援策として「定着確認シート」活用事業というものをスタートさせました。

これは、四年生から中学二年生までの国語、算数、（数学、英語）の問題をインターネットを通じて年間六回配信し、各学校で取り組むというものです。基礎、基本及び活用力がどの程度定着しているか確認し、授業改善に生かしていくということで、早速、本校でも実施しました。県では、更に平均の正答率なども発表するようで、それをもとに、本校児童の実態など詳しく分析できるようになります。

残念ながら、保護者の皆様には問題はＩＤとパスワードでダウンロードするためご覧いただけませんが、その一部を紹介します。

今年二〇一〇年は、「国民読書年」です。読書時間を調べたある調査では、二〇〇〇年の時は「雑誌・マンガ」と「本」を分けて調査していましたが、二〇〇五年の時は両方を合わせて「雑誌・マンガ・本」として調査を行っていました。あなたは、雑誌やマンガを読むことを、「読書」といってよいと思いますか。よいか悪いか立場を明らかにして、なぜそう考えるのかを書きなさい。

〈注意すること〉
①百六十字以上二百字以内で書くこと。
②二段落構成で書くこと。（一段落目は、よいか悪いか立場を明確にし、二段落目は、その理由を書くこと）
③正しい作文用紙の使い方で書くこと。

これは、五年生の国語の問題です。自分の考えをしっかり持ち、表現する力が求められています。